

ハマゴウノメイガ

チョウ目ツトガ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー なし

Herpetogramma albipennis Inoue

選定理由

土木工事等によって海浜植物帯が破壊され、本種の食草であるハマゴウが消滅し、生息地が激減している。特に、小松市において生息地の減少が著しい。

形態

開張18mm前後の小型のガである。翅の色は白色で、前後翅ともに数本の褐色の横線が走っている。

国内分布

これまでに石川県、福井県、和歌山県、伊豆大島、佐賀県、熊本県から得られている。

県内分布

加賀市、小松市、能美市、白山市、金沢市の海岸部に生息しているが、内灘町以北には生息していない。

生態

成虫は7月下旬から8月に出現し、ハマゴウ群落から離れることはない。幼虫はハマゴウの雄しべ、雌しべ、花弁を食べ、7月中旬から9月上旬まで見られる。老熟幼虫は、地下部のハマゴウの匍匐茎に付着させたマユの中で越冬する。

生息地の条件

砂浜海岸において、食草であるハマゴウ群落がある程度まとまって存在していることが重要である。護岸工事がされても、まとまったハマゴウ群落が帯状に残っていれば、本種の生息は可能である。

生存の危機

砂浜海岸は護岸工事や土地造成の影響を受け、ハマゴウ群落のある海浜植物帯が消滅あるいは狭小化している所が多く、本種は確実に減少している。特に小松市において減少が著しく、安宅から安宅新の生息地は、過去数年の護岸工事ではほぼ消滅した。海浜植物を保全しつつ土木工事を実施することが重要である。また、砂浜への車の乗り入れも本種の生息を脅かしている。(A)

特記事項

石川県産がholotypeに指定されている。

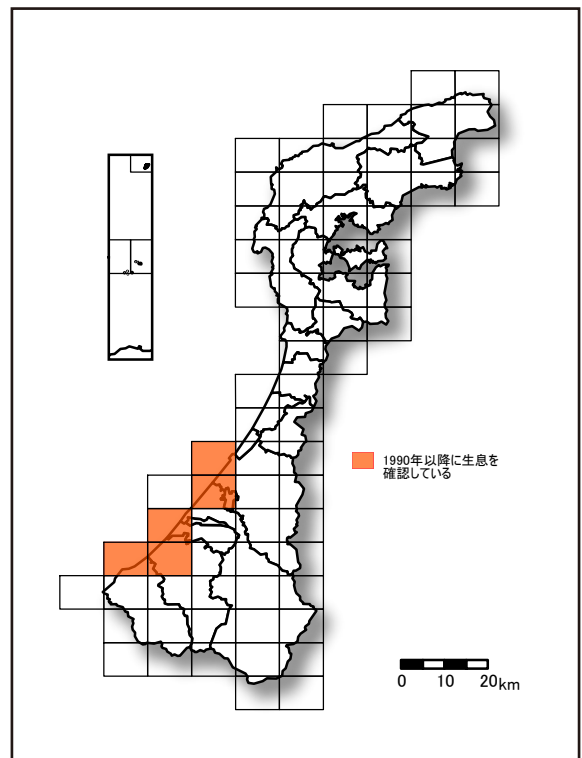
参考文献

Inoue, H. 2000. A new species of the genus *Herpetogramma* Lederer (Pyrastinae Crambidae) from Japan. *Trans. lepid. Japan* 51(4) : 316-318.

富沢 章 2000. 石川県におけるハマゴウノメイガの分布と生態. *蛾類通信*, (211) : 208-212.



写真提供者: 富沢章



県内の分布